

令和3年度

瑞穂市自治会連合会 事業報告会

西校区版「いつまでも安心して暮らせるまちづくり」

～西校区地域支え合い推進会議設立経緯と現況報告～

(西校区自治会協議会・西校区地域支え合い推進会議) …P 1

本田校区避難所運営協議会の設立に向けて

(本田校区自治連合会) …P 1 2

日 時：令和3年12月18日(土)

第1部 事例発表 午後2時～午後2時50分

第2部 研修会 午後3時～午後4時

場 所：瑞穂市市民センター 大ホール

令和3年度も、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として、各自治会や校区連合会等では、計画していたさまざまな事業・行事が予定通り実施できず、また、コロナ禍の地域社会の中で生まれた課題解決にご苦労されているのではないかと思います。

感染状況につきまして、現在は少しずつではありますが、落ち着いた状況になってきました。しかし、まだまだ今後も油断することなく状況を注視する必要があります。

そのような状況の中、地域住民が安心して暮らしていける安全な地域づくりを目指して、地域で活動する実践者の報告に耳を傾けていただき、地域コミュニティの力を感じていただきたいと思います。

今回で4回目の開催となります本日の事業報告会が、地域のつながりの重要性を改めて考えていただく機会になれば幸いです。

NO. 1

<p>【テーマ】</p> <p>西校区版「いつまでも安心して暮らせるまちづくり」 ～西校区地域支え合い推進会議設立経緯と現況報告～</p>
<p>【活動主体】 西校区地域支え合い推進会議 (西校区自治会協議会、民生委員・児童委員、主任児童委員等)</p>
<p>【活動の主旨】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●期 間 令和3年4月10日 ～ ●目 的 誰もがいつまでも安心して暮らせる地域づくりの推進 ●内 容 <ul style="list-style-type: none"> ①西校区地域支え合い推進会議設立の経緯 <ul style="list-style-type: none"> ・様々な人たちの協力があったの設立 ②活動の現況 <ul style="list-style-type: none"> ・メンバー座談会による地域課題の抽出 ・住民のニーズを的確に把握するための取り組み ●活動のポイント・工夫等 もともと住民の結びつきの強い地域という特性は活かしながら、必要な活動を創出していくよう努める。そのために住民ニーズを的確に把握することを重視していく。
<p>【成 果】</p> <p>西校区支え合い推進会議の方向性をメンバー間で共有できたこと</p>
<p>【課題と今後の展望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①コロナ禍で進行が妨げられること ②校区住民全体への周知 ③役員交代がある中で、西校区支え合い推進会議活動を安定的に継続させること



西校区版

「いつまでも安心して暮らせるまちづくり」

～西校区地域支え合い推進会議設立経緯と現況報告～

西校区地域支え合い推進会議 会長

民生委員・児童委員

西校区自治会協議会 顧問

矢嶋 將式



自己紹介

- 昭和27年生まれ 69歳
- 生まれ 岐阜市内 現在 瑞穂市田之上（昭和51年に転入）
- 職業 自動車、建設機械の販売・整備関係

- 平成24年～平成30年
田之上自治会長（3期6年）
- 令和元年～
田之上地区 民生委員・児童委員



「2025年問題」今は2021年、あと4年で2025年

- 昭和21年生まれの人⇒75歳になり「後期高齢者」となり
- 4人に1人が75歳以上（団塊の世代）

その子供が昭和45年頃の生まれ

そして

「2050年問題」

昭和45年頃に生まれた団塊の世代の子どもが高齢化

巢南・西校区高齢化率（令和3年4月現在）

小数点以下第2位を四捨五入

自治会	高齢化率(%)	自治会	高齢化率(%)
座倉	30.9	新月	30.7
一ツ木	28.6	上唐栗	15.8
居倉	34.8	下唐栗	18.0
森	26.4	宮田	37.2
西宿舎	18.6	大月	27.2
田之上	21.9	西校区	26.2
		中校区	32.0
		南校区	17.2

令和3年度 西小6年生50人卒業して
1年生25人入学

西小生徒数212名

座倉 1名 田之上 45名 ※各自治会の格差

高齢化が進む中で、 マスコミや菅(前)総理が使われる言葉

厚生労働省が示す地域包括ケアシステムの構築における「自助」「互助」「共助」「公助」の位置づけ

自・互・共・公助	支え手等	内容
自助	自分	自分の事は自分で
互助	近隣	地域での助け合い ボランティアグループの生活支援
共助	保険	社会保険制度 (介護保険・医療保険・年金制度)
公助	行政	税金による負担 (生活保護・虐待防止など)

自助 4割 **互助 3割** 共助 2割 公助 1割

地域包括支援システムにおいて生活支援・介護予防を実践する 生活支援体制整備事業（平成27年）

- 瑞穂市「瑞穂市生活支援体制整備事業実施要綱」2月22日告示第34号
「多様な日常生活上の支援体制の充実及び、強化並びに高齢者の社会参加の推進を一体的に図ることにより、生活支援サービスの充実を図るとともに地域における支えあいの体制づくりを行う事業をいう」

（その内容）

事業の実施主体は市

- 第1層協議体は瑞穂市全域を担い、社協へ委託
- 第2層協議体は、各小学校区（7つの校区）

第2層協議体設置校区において「**受託金を活用してください**」とすすめられ

その条件とは

- ①校区住民組織の立ち上げ
- ②規約の作成
- ③会計を置く ⇒会計監査・収支決算

設立経緯(1) 平成24年 自治会連合会設立についての審議

- ・ 巢南地区反対の理由

巢南地区は住民同士の結びつきが強い
各単位自治会が組織化・活動を実施している

(活動例)

- ①中学生中心の各自治会の「夏祭りフェスタ」(7~8月)
- ②グランドゴルフ大会
- ③春・秋の街路清掃および用水清掃活動
- ④春・秋の祭礼、秋の虫送り
- ⑤西小学校区全体、自治会の防災訓練



連合会組織は、必要なし

設立経緯(2) 西校区自治会協議会の発足(平成30年)へ

- ・ 西校区の自治会の問題点

- ①各自治会の小学生生徒数の格差
- ②老人会の継続・・・ない自治会もある
- ③自治会の役員(自治会長、民生委員・児童委員)の担い手不足



校区自治会間での情報共有、連携・協働の必要性

当時の西校区代表 小倉自治会長(居倉)、堀自治会長(田之上)が中心となり
校区連合会設立に向けて何度も協議を重ねる



校区自治会の情報共有や連携の協議体
「西校区自治会協議会」の発足

設立経緯(3)「西校区地域支え合い推進会議」設立(令和3年)へ

- 西校区自治会協議会において
地域支え合い推進会議の発足にむけての協議(平成31年から)



- 西校区自治会協議会と校区の民生委員・児童委員で協議



令和3年4月10日 西校区地域支え合い推進会議 設立総会



【目的】
西校区における
支え合いの推進

【会員】
西校区自治会協議会(顧問・自治会長)
民生委員・児童委員、主任児童委員 他
計22名

※今後、目的・目標の共有を進めながらメンバーを増やしていく



西校区地域支え合い推進会議 これまでの活動

—西校区の課題把握に向けて—

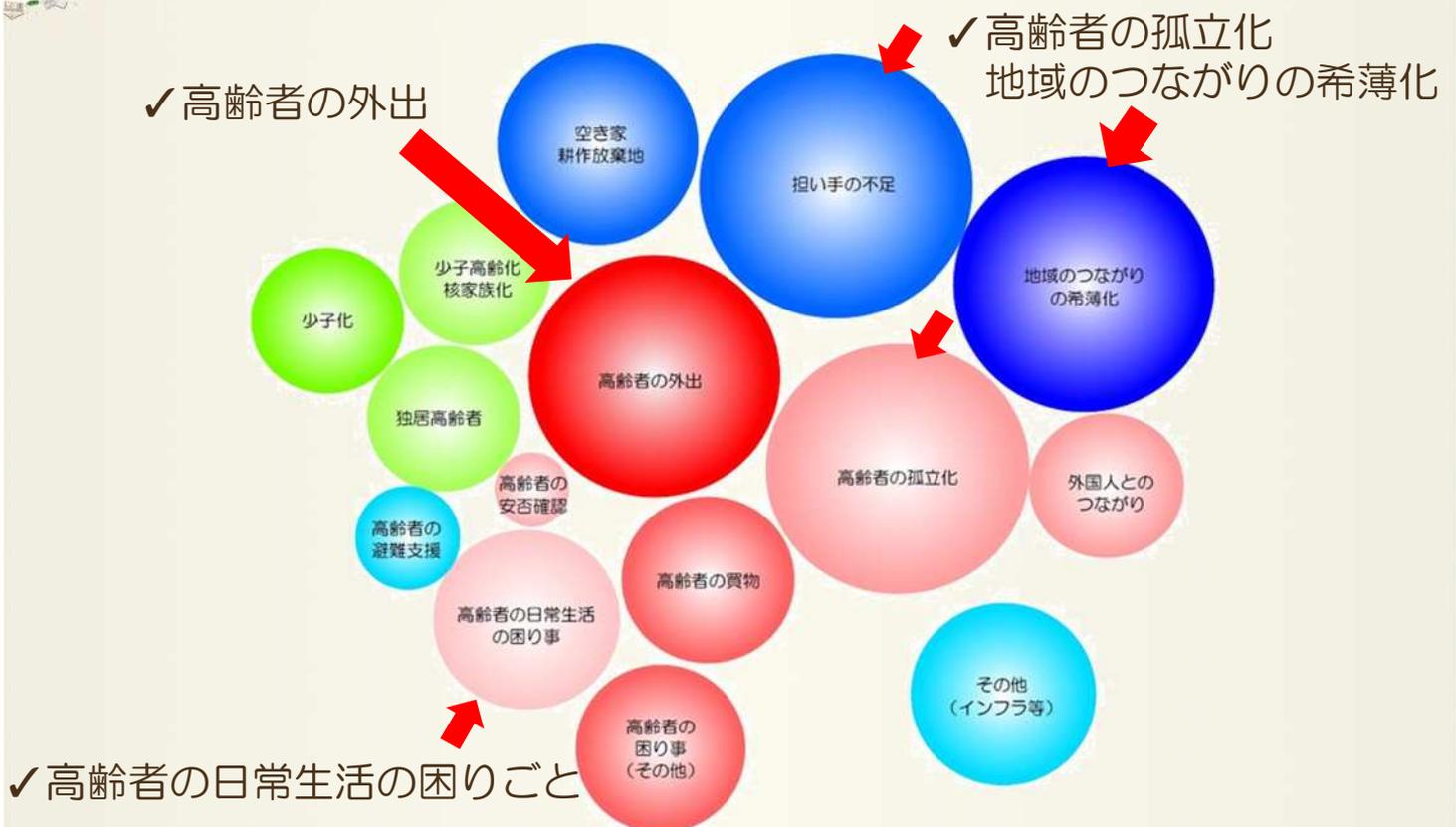
第1回会議

座談会「地域の課題・心配ごとを語りつくそう」

・令和3年5月22日予定 コロナ感染状況により中止→7月10日開催



座談会の意見集約（課題全体集計可視化イメージ図）



第2回会議 座談会の結果と今後の方向性について

- 令和3年9月11日予定 コロナ感染状況により中止→11月6日開催
- 座談会で多くのグループ・メンバーから課題としてあがった次の項目を重点的に取り組んでいく。
 - 高齢者を孤立させない、地域のつながり
 - 外出支援について
 - 日常生活の困りごとの支援



- 取り組みにあたり、実態把握が必要（特に外出についての実態把握は必至）
- 支え合い推進会議の進行を加速させるために、実態調査についてのワーキンググループを作る
- ワーキンググループで原案を作成し、本会議で検討→実践へつないでいく

実態調査のためのワーキンググループ始動

- 11月6日の本会議後に、ワーキンググループでの調査検討を開始
- 原案作成に必要な頻度で検討会を開催する

実態調査のための検討項目

- 調査概要
- 調査対象
- 調査方法
- 調査時期
- 調査項目
- 分析方法 等



住民のみなさんへの周知

- 12月広報
西校区配布分に
挟み込み

「西校区地域支え合い推進会議」 が発足しました！

令和3年12月1日
西校区地域支え合い推進会議
会長 矢嶋将次(由之上 民生・児童委員)

現在日本では、少子高齢化が大きな課題となっています。瑞穂市でも85歳以上の高齢者の割合は21.2%、西校区は24.4%になっています(令和元年10月)。高齢になれば、自費だけで何とかなしたい(自助)と思ってもなかなか解決できない困りごとが出てきます。

「車の免許を返納したので、買い物や病院通いが不自由になった」
「体が若い頃のように動かないから、自宅の草刈りが思うようにできない」
「近所の方は連れ合いを亡くしてから話す相手がなく、元気がなくなった」
こんな困りごとを抱えた方が、皆さんの周りにもおられませんか。

高齢化の一方少子化も進み、高齢者を支える人が減ってきています。2012年には85歳以上の方1人を20~64歳が2.4人で支えていましたが、2040年には1.4人で支えることとなります。財政的・人的に、公的サービス(公助)だけで困りごとを全て解決することは難しくなってくるのです。そこで、地域で支え合うこと(互助)が必要になってきます。

以上のような事情から、西校区の人が安心して暮らせるまちづくりを目指して、地域の支え合いを進める組織「西校区地域支え合い推進会議」が令和3年4月に発足しました(現在、各区自治会長、民生委員など会員22名)。推進会議では、まず西校区の高齢者(詳細未定)が実際にどんな困りごとをかかえておられるのかを把握するため、3年度内にアンケート調査をすることにしました。それをもとに、どのような内容・方法で活動をしていくと良いかすみやかに検討し、具体的な支え合い活動につなげていきたいと思っています。

また将来的には、子育ての悩みを抱えて困っている人など、この地域の色々な困りごとを持った方にも対応できたらと考えています。

西校区の皆様は、この組織の発足を知っていただくとともに、今後高齢者対象に行われる困りごとアンケート調査にぜひご協力をお願いします。



◆西校区地域支え合い推進会議 問い合わせ先
瑞穂市社会福祉協議会南支部 小島 美佐子
(生活支援コーディネーター) TEL058-328-5174

その他の動き

- JAぎふ巣南支店様との打合せ

- 今後の支え合い推進会議の進捗に合わせ、連携・協働のための協議を実施





西校区地域支え合い推進会議 今後の活動

—方向性と課題について—



展望と課題

- 今後の方向性について
 - 実態調査の実施
 - 調査結果をもとに必要な支援の検討へ
 - 今ある資源の活用（連携・協働を含む）
 - 新たな支援の創出
- 課題
 - コロナ禍で会議中止が余儀なくされる中、どのように協議体の進行を円滑に行うか
 - 校区住民への周知 →誰一人取り残されない
校区住民によるお互いさまの支え合い
 - 役員交代のある中で、西校区支え合い推進会議を安定的に継続させるようにするためにどうするか

西校区支え合い推進会議は、
動き始めたばかりです。

今後、より多くの住民さんに知っていただき、
みんなで「誰もが安心して暮らせるまちづくり」
に取り組んでいきたいと思っています。

ご清聴
ありがとうございました

NO.2

【テーマ】 避難所運営協議会設立
【活動主体】 本田校区自治連合会
【活動の主旨】 <ul style="list-style-type: none">●期 間 令和3年10月17日（避難所運営協議会の設立）●目 的 地域住民の防災意識向上と安全安心な地域づくり●内 容 本田校区自治連合会において防災部会を設立、住民が連携し、互いに身を守るため自治会ごとに防災活動を行う自主防災組織を結成することから始め、各指定避難所毎に避難する自治会が集まり、様々な訓練を重ねる中で課題を抽出し、本年、避難所運営協議会を設立しました。●活動のポイント・工夫等 本田小校区内3か所の指定避難所の運営協議会の規約等を規定し、本年10月17日に3か所同時に設立。指定避難所における基本的な事項の統一を図るとともに、指定避難所の施設長を交え災害時の施設の利用方法等を確認しながら訓練を実施している。
【成 果】 本田校区内のすべての自治会が訓練に参加しており、また、一部の避難所では、生津校区の自治会の避難所にもなっており、校区の枠を超えた協議会を設立することができた。
【課題と今後の展望】 次年度以降、3箇所の避難所の開設訓練を同日に実施することを計画。併せて、市の災害対策本部と連携した訓練も計画しており、実際に起こりうる災害を想定した訓練ができないかを検討している。

本田校区避難所運営協議会 の設立に向けて

本田校区自治連合会
副会長 岡本 勝之

本田校区自治連合会

本田校区自治会 21自治会

◎住基人口	8,978人 (55,163人)
◎住基世帯数	3,446世帯 (22,087世帯)
◎自治会加入世帯	2,478世帯 (15,286世帯)
☆自治会加入率	71.9% (69.2%)

本田校区自治連合会

平成31年3月23日発足

会長（1名） 渡辺 昭博

副会長（若干名） 岡本 勝之 （防災担当他2名）

委員会 ①**防災会議** ②福祉委員会

③ほんでんの自然を守る会

【特徴】

連合会の役員については、基本的に自治会長のOB（経験者）を選任している。現役の自治会長は、各単位自治会の運営に専念していただけるよう努めている。

また、防災の取組については、会長と副会長の4名でミニ防災会議を開催して方向性等の議論をしている。

なお、社会教育活動については、いきいき活動委員会と連携して活動中です。

避難施設一覧(瑞穂市防災読本)

校区	施設名称	指定緊急避難場所		広域 避難場所	指定 避難所	備蓄 倉庫	所在地	
		洪水・内水氾濫	地震・火事					
生津	生津小学校校舎・体育館	●	●		●	●	馬場上光町2丁目108	
	生津小学校グラウンド		●	●			馬場上光町2丁目108	
	前畑公園		●				馬場前畑町2丁目169	
	上光公園		●				馬場上光町1丁目141	
	馬場公園		●				馬場上光町2丁目107	
	高道公園		●				馬場小城町1丁目122	
	生津スポーツ広場		●				生津223-1	
	滝坪公園		●				生津滝坪町1丁目123	
	彦内公園		●				生津外宮前町2丁目87	
	真菰池公園		●				生津外宮東町1丁目97	
	天待公園		●				生津大土東町2丁目70	
	南流公園		●				生津天王町2丁目106	
	本田	★ 本田小学校校舎・体育館	●	●		●	●	本田938
		★ 本田小学校グラウンド		●	●			本田938
★ 穂積北中学校校舎・体育館		●	●		●	●	本田2000	
穂積北中学校校舎南球技場			●	●			本田2000	
本田第1保育所			●		●		本田1915	
本田第1保育所屋外遊戯場			●		●		本田1915	
本田第2保育所			●		●		只越387	
本田第2保育所屋外遊戯場			●		●		只越387	
ほづみ幼稚園			●		●		只越500	
★ ほづみ幼稚園屋外遊戯場			●		●		只越500	
★ 本田コミュニティセンター	●	●		●		本田977-1		
せせらぎ公園		●				本田2201-15		
サン・プラスパ				民間		只越1061		

従前の穂積北中学校避難所確認訓練等

取組の始まりは、東日本大震災が発生した平成23年4月に、仁井自治会で自主防災組織立ち上げ、毎年、避難誘導訓練等はじめとして、各種の訓練を実施。

平成30年は、穂積北中学校に避難する7つの自治会の住民210名の参加で、市の避難所運営マニュアルに沿った、避難所確認訓練を実施。

令和1年からは、コロナ禍で参加人数を縮小して実施。

①計画 → ②訓練実施 → ③反省会

施設管理者(教頭先生)や消防署職員、消防団員等の関係機関の協力を得ると共に、前年度自治会長にも引き続き協力を頂きました。

設立までの歩み(令和3年度)

4月17日	校区連合会役員会で設立に向け協議
5月12日	校区連合会理事会で設立に向け協議
6月 6日	校区連合会にて防災勉強会を実施 ※関係者が参集し、設立準備会スタート
7月12日	穂積北中学校施設見学会及び準備会
7月18日	本田小学校施設見学会及び準備会
7月18日	本田コミュニティセンター施設見学会及び準備会
10月 3日	校区連合会役員会で 設立予定説明
10月17日	校区連合会防災会議で説明 各避難所運営協議会設立



◎令和3年10月17日に協議会が設立

協議会名称

穂積北中学校避難所運営協議会

7自治会（[下生津](#)、仲東、仁井、西只越、テラスノバ只越、桜町二丁目、東只越）

本田小学校避難所運営協議会

9自治会（松原、西町、畑中、仲町、東町、大門、本田緑町、小橋、向島）

本田コミュニティセンター 避難所運営協議会

6自治会
（仲西、本田団地第一・本田団地第二、本田団地第三、本田団地第四、本田団地第五）

各避難所運営協議会 設立に向けた取組

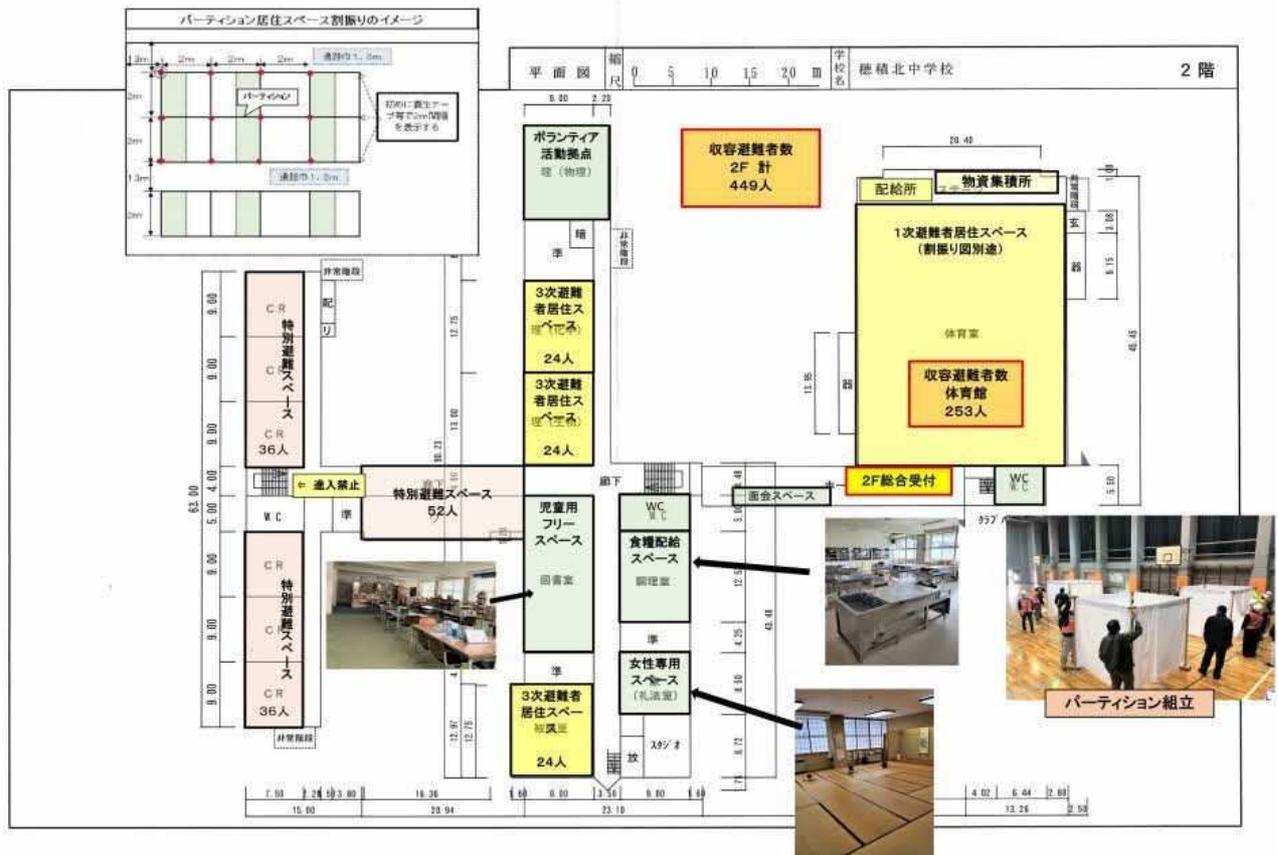


設立に関する取組

1. 各避難所運営協議会規約・組織・役員・役割分担名簿
◎継続性から役員の実験者の防災サポーター及びアドバイザー制度取り入れた。
2. 各避難所施設利用計画図
3. 各避難所の推定避難者数と施設の避難者収容可能数の算出

継続性に関する取組

1. 防災関連ファイル
ファイル名：引継保存用 ○○避難所運営協議会 ○○自治会
◎防災関連ファイルとして活用、内容追加・更新時には加除して管理。
また、自治会長等交代時の引継用として使用して頂く。
2. 各避難所運営協議会の令和3年度避難所開設訓練要領
◎新組織・役員体制及び施設利用計画に基づく各避難所の防災訓練。



各避難所の推定避難者数と 施設の避難者収容可能数の試算

瑞穂市に影響を及ぼす地震による被害想定（H24推定）からの避難者数の算出（防災読本）

◎養老・桑名・四日市断層（震度6強M7.7）→

避難者数 11,399人、建物全倒壊数 2,434、建物半倒壊数 3,766

①H25：瑞穂市人口 52,453人 21.7%

②H25：耐震化率約79%→R2:耐震化率約95%⇒約16%向上 在宅避難者増 18.3%

③令和3年5月現在の人口などのデータ（単位自治会の状況） 推定避難者数

項目	穂積北中学校	本田小学校	本田コミセン	合計
人口	4,655	4,152	1,698	10,505
世帯数	1,922	1,569	676	4,167
人/世帯	2.4	2.6	2.5	2.5
避難者数	851	760	311	1,922

各避難所施設の収容可能な避難者数の算出

避難スペースの利用について

- 1) 一般に開放しないスペース（校長室・職員室・事務室等）
- 2) 避難者1人の居住スペースは、（3.3㎡/人）を確保
- 3) 避難数に応じて段階的に居住スペースの増減を行う。利用順序は
 - ① 1次避難スペース→小中学校体育館、本田コミセン多目的ホール
 - ② 2次避難スペース→穂積北中学校柔剣道場、本田小学校多目的ホール、本田コミセン会議室
 - ③ 3次避難スペース→穂積北中学校特別教室
 - ④ 特別避難スペース→小中学校普通教室、本田コミセンコミュニティールーム2

なお、特別避難スペースは、本田小校区内の指定避難所（穂積北中学校、本田小学校、本田コミセン）の2～3次避難スペースの収容避難者数が上限に近づくと想定された場合、各運営協議会長は瑞穂市災害対策本部と調整の結果、使用が承認されたのち、使用できるものとする

また、避難所のスペースが段階的に縮小される事から、学校の授業再開に向けた準備も計画的に進めることが可能となる

避難者収容可能数

	穂積北中学校	本田小学校	本田コミセン	合計
1次避難スペース	253	278	74	605
2次避難スペース	192	58	16	266
3次避難スペース	240	-	-	240
車中泊スペース	298	212	100	610
計	983	548	190	1,721
特別避難スペース	320	216	12	548
合計	1,303	764	202	2,269
避難者数	851	760	311	1,922
全使用推定過不足数	452	4	△109	347

車中泊スペースは、液状化現象で道路が使用出来ない場合等、過不足数に影響する避難者収容数を把握する事で、各避難所間の情報交換で避難者数の調整が可能

避難所開設訓練の概要



- ①実施日時 : 令和3年11月21日(日)
8:00~12:00 (小雨決行)
- ②実施場所 : 穂積北中学校 体育館・駐車場
- ③訓練目的 : コロナ禍の災害時に避難所を開設する
- ④訓練想定 : 震度5強の地震が起り、多大な被害が発生、多くの避難者が穂積北中学校に集まった
- ⑤訓練内容 : コロナ感染症対策に対応した
避難所開設訓練
- ⑥自治会名 : 下生津、仲東、仁井、西只越、
テラスノバ只越、桜町二丁目、東只越
- ⑦参加者 : 各自治会長及び関係役員の約2名 消防団員
- ⑧進行担当 : 桜町二丁目 自治会長

※今回の訓練は、参加者が全内容の分かる直列の順番で行っています

突然地震が発生した場合の 避難開始まで行動

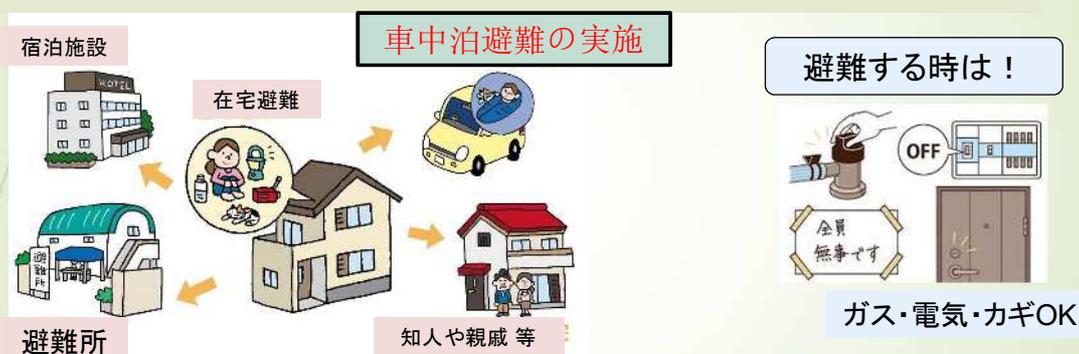
経過時間	自助・共助の行動		
	状況	各個人の行動	自主防災活動等
		<ul style="list-style-type: none"> ・地震の揺れに注意、自分の身を守る ・玄関を開け避難路確保 	
地震発生直後			
~約3分	揺れがおさまった	<ul style="list-style-type: none"> ・素早く火の始末、ガス元栓を閉める ・電気ブレーカを切る ・危険が予想される場合は即避難 ・火が出ても落ち着いて初期消火 ・家族の安全確認 ・危険物でいっぱい、靴を履く 	

経過時間	自助・共助の行動		
	状況	各個人の行動	自主防災活動等
～約10分	<ul style="list-style-type: none"> ・隣近所の安全確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・安否確認、隣近所に声をかける ・近所に火は出ていないか？ ・漏電、ガス漏れ、余震に注意 ・災害時要援護者の確認と援護 	
～約30分	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集 	<ul style="list-style-type: none"> ・TV・ラジオ等から情報収集 ・スマホから情報収集 ・防災行政無線等で情報確認 	<p>自主防災活本部の設置</p> <p>自主防災活動班活動開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報班による地域内の被害情報収集 ・市等からの情報を住民へ正しく伝達

経過時間	自助・共助の行動		
	状況	各個人の行動	自主防災活動
～約3時間	・火災発見	・みんなで消火活動！	
	・転倒家屋発見	・みんなで救出救護活動！	
	・負傷者発見	・みんなで要援護者への支援！	
	・避難準備	<ul style="list-style-type: none"> ・避難グループの集合場所に集合 ・一時避難場所に一時避難する（公民館前・広場・公園） ・自宅に被害のない住民は帰宅（班長にその旨を連絡する） 	<p>・活動可能な住民は、各活動班で活動を開始する</p>
	・避難行動開始	<p>・家屋に被害のある住民は、避難所に向かう</p>	<p>・鍵の保管者の自治会長は、被災状況を考慮の上、避難所開設準備のため、避難所に行く</p>

避難行動の開始

1. 自宅の被害状況、家族の健康状態確認等 ⇒ 避難先の選択



事前に避難所以外の分散避難を検討（感染リスクを避けるため、在宅避難の可否、親戚・友人宅へ避難、宿泊施設、安全な場所での車中泊等）

いちひろゆきイラスト

- ・安全な場所にいる人は、避難所に行く必要はない
- ・分散避難時の自治会員の所在把握（連絡体制、物資の配布等）

2. 自治会の班毎に集合（非常持出品）、安否確認、 一時避難場所に集合（災害状況を確認） ⇒ 避難所に向かう

感染症予防のマスク、消毒液、石鹼、体温計などは各自で用意する

- ・可能な限り、感染症予防対策は自前で行う（個人備蓄）



マスク・消毒液等忘れずに

健康状態チェックカード、避難者カードは**事前記入**する

- ・事前受付で「健康状態チェックカード」を提出し、総合受付では「避難者カード」を提出する

担当自治会長さんへのお願い

今回の訓練に、車中泊避難者受入、体調不良者の受付誘導等の訓練も含めてを行います

※ 1 訓練の前日までに、協力者を決めておく

◎ 車中泊避難者 1名

※ 2 訓練当日の防災備蓄倉庫前に集合、参加者確認時、協力者を定める

◎ 模擬の体調不良者の方 1名

◎ 体調不良者対応の担当者 3名

訓練内容とタイムスケジュール

- ②-1 自治会の一時避難場所から避難所に向かう
- ②-2 車中泊避難者は、車中泊スペースに向かう

9:00 ③穂積北中学校の門扉開錠する
(北門及び西門)
④穂積北中学校防災備蓄倉庫前に
全員が集合待機する

進行担当自治会長は、訓練の打合を行い、続いて要領の手順で指示を行う



⑤防災備蓄倉庫の開錠する

- ・鍵の管理自治会長 持参：仁井、仲東、下生津
→代表者が開錠

⑥倉庫内キーボックスを開錠、体育館の鍵を取出

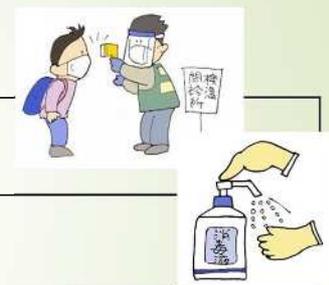


⑦同時に「避難所開設セット」及び「感染症対策セット」を持出

⑧まず、「感染症対策セット」から消毒液、体温計を取出、訓練参加者全員の消毒・検温・問診 ※ 非接触型体温計の操作方法をマスターする

●「感染症対策セット」の収納物品

- ・事前及び総合受付の受付表示紙
- ・アルコール消毒液、非接触型体温計、フェイスシールド
- ・予備の「健康状態チェックカード」、「避難者カード」
- ・巻尺、表示用養生テープ等（受付の並ぶ位置 2 m表示）



⑨ 居住スペース材及び割振り等の資器材持出

- ・メガホン（担当自治会長所持） **最新の備蓄品**
 - ・居住スペース用→**エアベット**（4個）
 - ・居住スペース用→自立型パーティション（1組）
ワンタッチパーティション（6組）
- ⇒持ち出した資器材の確認チェック

⑩ 担当自治会長は、避難所を**開錠**、建物内に人がいるか確認（確認項目1）

●まだ、入場しない事
（避難所安全確認等が必要）

⑪ 「避難所開設時の安全確認チェックリスト」で安全確認を行います

●まず、担当自治会長は
メガホンテストする（！電池不足等）

イ：体育館屋外 項目2
から安全を確認

□：次に、体育館内
項目3・4 安全確認を実施



避難所開設時の安全確認チェックリスト

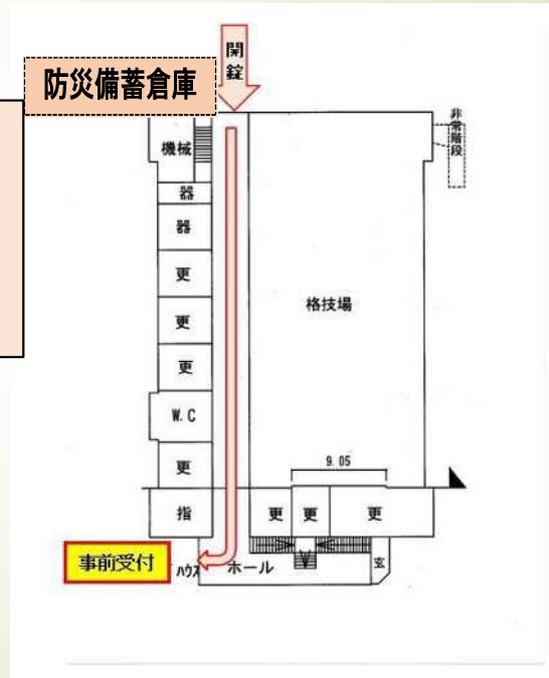
調査時点： 年 月 日 () 時 分

担当者 調査者

項目	□	必要対応
1. 施設利用者の確認		
1-1 建物内に人が入っている	<input type="checkbox"/>	- 確認を完了するまで建物内からの退避を誘導
2. 建物からの建物の確認		
2-1 周辺施設や建物の危険性がある	<input type="checkbox"/>	- 屋外へ退避し、他の避難所への転移を検討
2-2 建物に傾いている	<input type="checkbox"/>	
2-3 建物に倒壊している	<input type="checkbox"/>	
2-4 窓の割れや破損がある	<input type="checkbox"/>	
2-5 屋根の落下や破損がある	<input type="checkbox"/>	
2-6 非常階段が使用できない	<input type="checkbox"/>	
2-7 火災が発生している	<input type="checkbox"/>	
2-8 ガスの漏れや臭い	<input type="checkbox"/>	
3. 館内からの建物の確認		
3-1 天井の落下や電線がある	<input type="checkbox"/>	- 施設管理者、施設利用委員会、避難所担当職員が協議の上避難所の利用可否を判断
3-2 廊下が安全に通行できない	<input type="checkbox"/>	
3-3 階段が安全に上り下りできない	<input type="checkbox"/>	
3-4 扉に危険な敷き物があ	<input type="checkbox"/>	
3-5 機軸の落下や破損がある	<input type="checkbox"/>	- 施設で使用する場合は、被災直時原因と、必要以上の開錠の理由が認められる場合は、開錠の中止（開錠の中止）を指示
3-6 窓ガラスの割れや破損がある	<input type="checkbox"/>	
3-7 煙火警報の検知していない	<input type="checkbox"/>	
3-8 (防炎シート、防炎シッター、スリッパ等)	<input type="checkbox"/>	
4. コインロッカーの確認		
4-1 ロックが正常に作動	<input type="checkbox"/>	- 故障がある場合は、避難所担当職員が確認
4-2 必要の鍵はすべて2021年2月4日以前に発行された	<input type="checkbox"/>	- 主に市災害対策本部へ申請
4-3 電気が使えない	<input type="checkbox"/>	- (停電の場合は非常用電源は使える)
4-4 非常用電源がない	<input type="checkbox"/>	
4-5 非常用電源がない	<input type="checkbox"/>	
5. その他危険な状況・危険部分への対処方法		
【 総合的な評価 】		
施設利用の可否について (○ ・ △ ・ ×)		

9:30 ⑫各資器材を体育館 1F通路から体育館入口の接続通路付近まで運搬仮置

- ・ 体育館 2Fに、
ベッド、パーティション、
巻尺、養生テープ、
消毒液、貼紙等を運搬



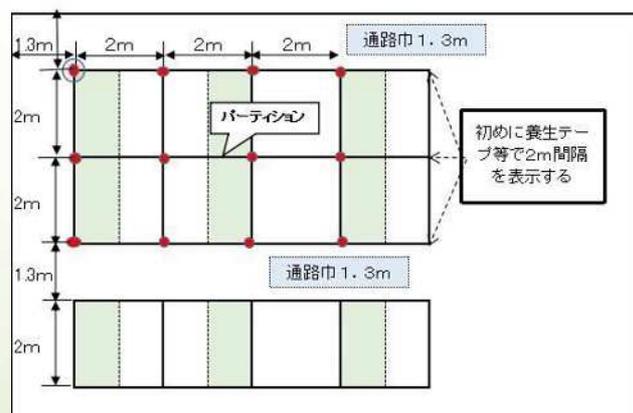
⑬体育館 2Fで居住スペースの割振を行う

- まず、三密を避け、避難所内の換気を十分に行うを避

イ：割振り図に基づき、通路幅とパーティションラインを養生テープで床に表示する

□：居住スペースの確保は、総合受付後に家族に合わせて行う

パーティション居住スペース割振りのイメージ



14 木工室に体調不良者専用スペースを設ける

□ 体育館の割振が終了→指名の3人が行く
(巻尺、表示用養生テープ持参) 選

イ：校舎入口 → 廊下 → 木工室入室 → 外側窓の鍵解錠

ロ：居住レイアウトは、2m以上離れた箇所に
養生テープで床等に表示するにする

ハ：終了後、復帰

予め、指名者を決めておく

15 2F 体育館入口付近に「総合受付」を設置する

イ：受付用長テーブルを設置→物置から運搬設置、総合受付案内を貼りだす

ロ：アルコール消毒液等を配置する



ハ：並ぶ位置、2m位置測定、養生テープを貼付表示
(2～3箇所)

①受付用長テーブル	1脚	保管場所：体育館2Fステージ横物置
②アルコール消毒液	1個	⑤受付表示(総合)紙 1枚
③巻尺	1個	⑥予備の「避難者カード」
④養生テープ	1個	⑦ボールペン

総合受付

避難者カード提出

⑩校舎と体育館の1F接続通路の体育館側に「事前受付」箇所を設置する

イ：受付用長テーブルを物置から運搬・設置、事前受付案内を貼りだす

ロ：アルコール消毒液、非接触型体温計等を配置する

ハ：並ぶ位置、2m位置測定、養生テープを貼付表示（2～3箇所）

①受付用長テーブル	1脚	保管場所：体育館2Fステージ横物置	
②アルコール消毒液	1個	⑥養生テープ	1個
③非接触型体温計	1個	⑦受付表示（事前）紙	1枚
④フェイスシールド	1個	⑧予備の「健康状態チェックカード」	
⑤巻尺	1個	⑨ボールペン	

事前受付

健康状態チェックカード提出



⑪事前受付を開始し、避難者の受入

● 受付者及び避難者の両方を交代で体験する（訓練）

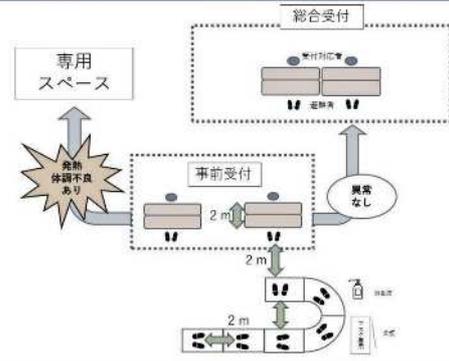
イ：避難者は、2m離れて並び、手指を消毒する

ロ：受付者は、避難者の検温・問診、
次に、交代して検温・問診を行う

ハ：三密を避けるため、予め記入した
「健康状態チェックカード」で問診する

ニ：「健康状態チェックカード」の提出は、
総合受付で保管

事前受付のレイアウト (例)



健康状態チェックカード (例)

当日の体調を記入し、医師に確認してください。

氏名 _____

◆確認について

- 発熱はありませんか
- 咳や痰はありませんか
- 喉の痛みを感じられないですか
- 味や匂いを感じられないですか
- 息苦しさはありませんか
- 吐きや嘔吐はありませんか
- 下痢が起きていますか
- ◆肺炎球菌ワクチンの接種について
- 肺炎球菌のワクチンを接種していますか

健康状態チェックカード

高齢で開いた場所の記入をお願いします

【様式②】 福井市長あて 避難所名 _____ 受付番号 _____

自治体名 _____ 避難所名 _____ 記入年月日 _____ 平成 ____年 ____月 ____日

避難者カード

世界代表者名 _____ 携帯電話番号 _____ (なければ自宅)

住民票の住所 _____ 町 _____ 丁目 _____

自宅の種類 _____ 高齢状況 _____

自來水の種類 _____ 風呂の種類 _____

車種 _____ ペットの飼育状況 _____

車中泊場所 (避難所外) _____ 車中泊者名のみ記入

◆必要が必須な事項 (ノを記入したものは、下部に詳細を記入)

性別	年齢	居住形態	要介護	身体	精神	認知	言語	その他	その他	その他
男	_____	<input type="checkbox"/> 単独 <input type="checkbox"/> 同居	<input type="checkbox"/> 要介護1 <input type="checkbox"/> 要介護2 <input type="checkbox"/> 要介護3 <input type="checkbox"/> 要介護4 <input type="checkbox"/> 要介護5	<input type="checkbox"/> 身体 <input type="checkbox"/> 内傷 <input type="checkbox"/> 外傷 <input type="checkbox"/> 骨折 <input type="checkbox"/> 脱臼 <input type="checkbox"/> 腫瘍 <input type="checkbox"/> 手術 <input type="checkbox"/> 移植 <input type="checkbox"/> 透析 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 精神 <input type="checkbox"/> 認知 <input type="checkbox"/> 言語 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 認知 <input type="checkbox"/> 言語 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 言語 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> その他

◆記入したものの詳細記入欄

避難所運営に協力できること (資格・経験)

緊急時からの避難 可 不可 必ず避難所の運営を担うため、避難所に入ることを、また、D.V.の緊急時により避難所を管理しない場合は、必ず申し出てください。

避難所 避難所名 _____ 避難所住所 _____ 避難所種類 _____ 避難所住所 _____

避難所 避難所名 _____ 避難所住所 _____ 避難所種類 _____ 避難所住所 _____

以上記入事項について、避難所運営委員、避難所長、避難所副所長、避難所運営委員の同意を得た上で、避難所に入ることを、また、D.V.の緊急時により避難所を管理しない場合は、必ず申し出てください。

印刷用：事前に指定箇所を記入して当日持参してください

避難者カード

体調不良者の申出が有ります

予め、模擬の体調不良者の方を決めておく

ハ：指名されている3名が対応する

ニ：担当者が体調不良者を専用スペースに誘導案内する

ホ：木工室の外窓側入口から入る

ヘ：確認後、教室の外窓側の鍵を鎖錠し、復帰する



⑱次に、総合受付開始する

イ：避難者は、2 m離れて並び、次に手指を消毒する

ロ：三密を避けるため、予め作成した「避難者カード」を提出する

ハ：避難者は、家族人数を告げる（今回は単身者）



⑲避難者の家族人数に合わせた居住スペースを確保し、案内する

●ベット、パーティションの組立訓練

※最新の市の備蓄品を活用

イ：ポイント表示を基準に、床にエアーマットを組立・設置する

ロ：エアーマット (L1.91×W0.73×H0.22)



ハ：次に、ワンタッチパーティション及び
自立型パーティションを組立・設置する

ニ：ワンタッチパーティション (L2.1×W2.1×H1.8)
自立型パーティション (L2.0×W2.0×H1.8)

ホ：地区を考慮の上、
家族人数に合った居住スペースに案内する



②通信手段の確保

災害時優先電話での通話訓練

災害時優先電話 → 職員室

瑞穂市 058-327-4111

②①模擬 瑞穂市対策本部
(市民協働安全課)
に電話で避難所開設報告
(様式3)



【様式3】

避難所開設報告書

1	発信・受付	発信の受付番号	
2	報告日時	年 月 日 時 分	
3	報告手段	<input type="checkbox"/> 電話 <input type="checkbox"/> FAX <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> 伝言 <input type="checkbox"/> その他()	
4	避難所名	連絡先(TEL)	
5	避難理由	<input type="checkbox"/> 避難警報(避難勧告)による避難 <input type="checkbox"/> 自主避難 <input type="checkbox"/> 家業の崩壊が逃れによる避難	
6	避難者・避難者数	世帯 人	
7	今後の避難者数の 見込み	<input type="checkbox"/> 増加傾向 <input type="checkbox"/> 減少傾向 <input type="checkbox"/> 変化なし	
8	被災不具合数	人	
9	避難者の状況	<input type="checkbox"/> 安全 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 食糧 <input type="checkbox"/> 防寒	
		ライフライン	<input type="checkbox"/> 停電 <input type="checkbox"/> 断水断熱 <input type="checkbox"/> 断水 <input type="checkbox"/> ガス停止
		トイレの 使用状況	<input type="checkbox"/> 既設 <input type="checkbox"/> 新設 <input type="checkbox"/> 簡易 <input type="checkbox"/> 未設
10	その他	生活物資	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> 不足あり <input type="checkbox"/> なし
		避難状況	<input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 非常時 <input type="checkbox"/> 危険 <input type="checkbox"/> 通行不能

① 特記事項(必要な物質、人の数等、必要に応じて記述)

※この報告書は、避難所開設報告書として提出します。
※この報告書は、避難所開設報告書として提出します。

地域（自治会）への報告（回覧）

(表)

回覧

令和3年12月6日

令和3年度 避難所開設訓練について（ご報告）

中二枚田自治連合会
中二枚田中学校避難所運営委員会

本委員は、中二枚田中学校避難所運営委員会の報告の報告に対し、ご協力いただいた皆様を
御礼申し上げます。

1. 実施日時：令和3年11月10日(日) 9:30～11:30

2. 実施場所：中二枚田中学校 中二枚田中学校避難所

3. 実施目的：中二枚田中学校避難所開設訓練を実施し、各自治会の避難所運営委員
の役割や役割の分担を確認し、各自治会の避難所運営委員の役割を明確にする。

4. 実施内容：中二枚田中学校避難所開設訓練を実施し、各自治会の避難所運営委員の
役割や役割の分担を確認し、各自治会の避難所運営委員の役割を明確にする。

5. 参加人数：各自治会代表者10名、中二枚田中学校職員10名、計20名

6. 実施内容：中二枚田中学校避難所開設訓練を実施し、各自治会の避難所運営委員の
役割や役割の分担を確認し、各自治会の避難所運営委員の役割を明確にする。

7. 実施内容：中二枚田中学校避難所開設訓練を実施し、各自治会の避難所運営委員の
役割や役割の分担を確認し、各自治会の避難所運営委員の役割を明確にする。

8. 実施内容：中二枚田中学校避難所開設訓練を実施し、各自治会の避難所運営委員の
役割や役割の分担を確認し、各自治会の避難所運営委員の役割を明確にする。

9. 実施内容：中二枚田中学校避難所開設訓練を実施し、各自治会の避難所運営委員の
役割や役割の分担を確認し、各自治会の避難所運営委員の役割を明確にする。

10. 実施内容：中二枚田中学校避難所開設訓練を実施し、各自治会の避難所運営委員の
役割や役割の分担を確認し、各自治会の避難所運営委員の役割を明確にする。

11. 実施内容：中二枚田中学校避難所開設訓練を実施し、各自治会の避難所運営委員の
役割や役割の分担を確認し、各自治会の避難所運営委員の役割を明確にする。

12. 実施内容：中二枚田中学校避難所開設訓練を実施し、各自治会の避難所運営委員の
役割や役割の分担を確認し、各自治会の避難所運営委員の役割を明確にする。

13. 実施内容：中二枚田中学校避難所開設訓練を実施し、各自治会の避難所運営委員の
役割や役割の分担を確認し、各自治会の避難所運営委員の役割を明確にする。

14. 実施内容：中二枚田中学校避難所開設訓練を実施し、各自治会の避難所運営委員の
役割や役割の分担を確認し、各自治会の避難所運営委員の役割を明確にする。

15. 実施内容：中二枚田中学校避難所開設訓練を実施し、各自治会の避難所運営委員の
役割や役割の分担を確認し、各自治会の避難所運営委員の役割を明確にする。

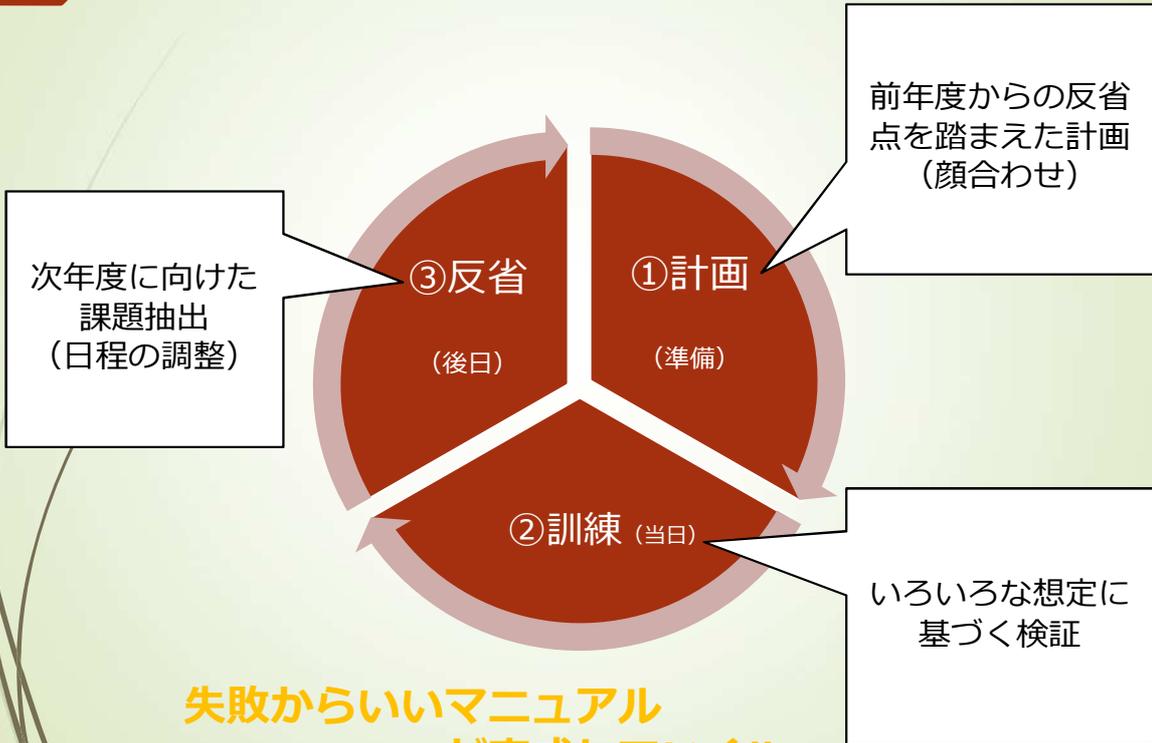
中二枚田自治連合会

(裏)



避難所運営訓練

～理想的な訓練計画～



失敗からいいマニュアル
が完成していく!!

課題について

- ① **体調不良者**の専用スペースとして利用する特別教室等について、**固定机**であるので間仕切壁の設置等の目的にかなう利用計画が出来るか検討する必要がある
- ② 各教室等の面積の算出は、**図面寸法**から算出していることから、計画通りの避難者数が収容可能か検討する必要がある。
 - ◎ 教室棟は、机などを移動した後、パーティション組立の可能範囲
 - ◎ 体育館等の面積の大きな施設は、利用可能な寸法等を測定し面積を算出
- ③ 各施設の各部屋スペース利用計画についても、訓練等を通して検討する必要がある。
- ④ 事前・総合受付体制及び避難者カード、健康チェックカード等の記入方法等について検討する必要がある。

今後について

いろいろな想定に基づいた訓練を実施し、
運営マニュアルの見直・整備を行う

役割分担した手順書で行う
「いつ誰でも初動期の避難所開設・運営訓練」を基本として

- ・ 平日の日中の時間帯を想定（学校の日曜参観日）
- ・ ライフライン完全寸断を想定
- ・ 炊出し訓練
- ・ 収容人員を超える避難者数を想定
- ・ その他

見直は、訓練実施後の参加者アンケートやワークショップなどから

令和4年度は、本田校区にある指定避難所3箇所と市の災害対策本部との合同訓練を11月20日（日）に計画中です。皆様の自治会もぜひ一緒に開催してみたいかがでしょうか？



ご清聴ありがとうございました

